

第三者評価結果（小規模住居型児童養育事業）

種別：	小規模住居型児童養育事業
①第三者評価機関名	
(一社)社会福祉事業評価機構	

②施設名等

名称：	ファミリーホームのぞみ
施設長氏名：	清水 マリン
定員：	6名
所在地(都道府県)：	広島県
URL：	http://www.toride2016.com/

③実施調査日

開始日	2021/6/14
評価結果確定日	2021/11/25

④総評

<p>【特に評価が高い点】</p> <p>①職員間の連携のもとに行われる、質の高い家庭的養育 家庭的養育の実践のなかで話し合いを重ね、対応する際には、主たる相談相手、フォロー役、第三者役など、役割分担をしながら、「複数で関わる」というアプローチを基本とされています。「困りごと」をテーマにした勉強会を繰り返し、職員のスキルの底上げに対する実践も対応の質の高さに繋がっています。</p> <p>②地域との関係性を重視した施設運営 法人単位でも、子ども食堂や宅食、学習塾の運営など地域に対する支援を重要視されています。施設単位でも、独自に地域との交流を図られており、様々な関わりがあることにより施設運営の強みとなっています。</p> <p>③ホーム長のリーダーシップが家庭的養育の質の担保に繋がっている点 子ども達からも慕われ、職員からのホーム長に対する信頼感は非常に厚く、良好な人間関係の下で質の高い支援が展開されています。①で述べた、質の高い養育の実践や勉強会は、ホーム長の長年の経験が基礎となり、質の担保に繋がっています。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>①ホームの啓発活動 ホーム長とのヒアリングにおいて、ファミリーホームの認知度を高める活動の必要性について話されていました。より地域に溶け込んだ運営を目指す観点や、ファミリーホームの存在の周知に寄与する観点を鑑みて、啓発活動の実践に繋がることを期待いたします。</p> <p>②規程集・マニュアル類の整備 開設後間もない実情もあり、現場実践では行っておられる内容において、規程・マニュアルが整備されていない項目も多く見受けられました。実践内容を鑑みると、現在の活動内容を文書に落とし込みするだけで、充実した内容のものが作成されるものと思われますので、早速に着手していただくことを期待いたします。</p> <p>③今後の新しい支援展開の体制構築 今後、子ども達の成長に伴って、施設として経験の乏しい、性教育、リビングケア、アフターケア、高学齢な子どもへの学習支援などに取り組まなくてはならない時期が到来します。他施設の事例の集積やファミリーホームのぞみとして、どのように支援を展開していくのか、具体的かつ実践的な提供方法をプランニングしておく必要もあるかと思えます。</p>
--

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>今回、初めて第三者評価を受けさせて頂きました。自分たちの業務を客観的な視線で振り返る事がなかなかないので、このような機会はありません。日頃から心がけている「チームで関わる」ということに対して、評価が高かったのが今後も継続して実施したいと思っています。</p> <p>改善点については、今まで経験に頼りがちでマニュアル類の整備ができていなかったもので、これを機に早急に着手していきたいと考えています。また、まだまだ地域の方たちに認知されていないと感ずることがありますので、今後も地域の方に少しでもホームを認知して頂けるよう、SNSを中心とした情報の発信と開かれたホーム運営に努めていきたいと思えます。</p>
--

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（小規模住居型児童養育事業）

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立されている。		第三者 評価結果
①	理念が明文化されている。	b
②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 基本方針についてはパンフレットにも記載されており、ホームの運営内容や地域との関わりなど、実践されている具体的な活動とリンクする内容であると判断できました。</p>		

I-1 理念・基本方針

(2) 理念や基本方針が周知されている。		第三者 評価結果
①	理念や基本方針が職員に周知されている。	b
②	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 「基本方針についてはパンフレットにも記載されており、職員も理解できている」との自己評価であったが、職員からのヒアリングにおいて周知に課題が残るといった印象を受けました。 子ども達に対しては、年齢や発達状況に応じて、約束事などを分かりやすく伝えることができるよう努めておられます。</p>		

I-2 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	中・長期計画が策定されている。	c
②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 現時点で、中・長期計画は用意されていません。しかしながら必要性は感じておられ、今後中・長期計画の策定に着手されるとのことでした。</p>		

I-2 事業計画の策定

(2) 事業計画が適切に策定されている。		第三者 評価結果
①	事業計画の策定が組織的に行われている。	b
②	事業計画が職員に周知されている。	b
③	事業計画が利用者等に周知されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 事業計画については、法人単位で作成されるものと、事業所単位で作成されるものがあります。事業所単位の事業計画については、ホーム長の認識では事業計画を職員の参画の下に策定しているという認識でしたが、職員の認識とギャップが存在しているようです。組織的な取り組みが行われている状況を更に明確化するために、職員の参画に対する認識が深まるような取り組みとしていただきたいと思えます。</p>		

I-3 ホーム長（管理者）の責任とリーダーシップ

(1) ホーム長（管理者）の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	ホーム長（管理者）自らの役割と責任を他の職員に対して表明している。	a
②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ホーム長の職務分掌については、役割も明確化され職員への周知も図られています。一方で遵守すべき法令に関する研修会への参加や、ホーム長自身も課題意識を持たれている、リスト化・書面化などへの取り組みに課題が残ります。</p>		

I-3 ホーム長（管理者）の責任とリーダーシップ

(2) ホーム長（管理者）のリーダーシップが発揮されている。		第三者 評価結果
①	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	a
②	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 「ホーム長として、他の職員が意見を言いやすいような環境と関係づくりに努めている」との自己評価に対して、職員の満足度も高いことがヒアリングを通して理解できました。職員からの信頼の厚さが強く伝わってきました。また、ホーム長の児童養護施設等での長年の経験が当ホームの質の担保に繋がっていると、訪問調査を通して実感することができました。</p>		

II 組織の運営管理

II-1 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	b
③	外部監査が実施されている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 職員会議を通して、分析する機会を設けている。</p>		

II-2 人材の確保・養成

(1) 人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	c
②	人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 法人本部で執り行われている内容であり、ホーム単位での取り組みは行われていません。また、施設の状況としては開設当初より人の入れ替わりも無く運営できているとのことです。</p>		

II-2 人材の確保・養成

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		第三者 評価結果
①	職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 職員が少ない状況のなか、有休休暇が取得できるよう努めておられます。職員の体調不良等があれば臨機応変に勤務変更や、また残業が生じることが無いようシフト調整を行い職員の就業状況に配慮されています。 職員が専門機関のカウンセリングを受ける機会の確保にも努めておられます。</p>		

II-2 人材の確保・養成

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		第三者 評価結果
①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され、計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 研修は年度当初に出される研修計画を基に割り振られます。研修後は復命書を提出し、職員会議の場で全職員に報告する機会を確保され、内容の周知が図られるような仕組みがあります。 また、職員会議のなかで、「困りごと」に着目されたケース検討を行い、支援の在り方に差異が生じないよう取り組まれています。</p>		

II-2 人材の確保・養成

(4) 実習生の受入れが適切に行われている。		第三者 評価結果
①	実習生の受入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取組をしている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 現状、ファミリーホームにおいて実習の受け入れを行うことは出来ませんが、コロナが落ち着き、自主的に学びたいという要望があれば受け入れの意向はあるとのこと。</p>		

II-3 安全管理

(1) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a
②	災害時に対する利用者の安全確保のための取組を行っている。	a
③	利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 防災訓練を月に一回の頻度で行われており、子ども達の防災への意識を高めるための働きかけを行っておられます。食品の備蓄は、3日間を想定した量を確保されています。 出来事の状態に応じて、ヒヤリハット報告書を作成し、職員会議で原因の分析や防止策について検討しておられます。</p>		

II-4 地域との交流と連携

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a
②	事業者が有する機能を地域に還元している。	a
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 地域の方からの声掛けもあり、地域行事には積極的に参加されています。野菜やおやつなど地域の方からの寄付の頻度も高いことから、地域に根差した施設運営を展開されていることが理解できます。 子ども食堂や宅食など、法人として取り組んでおられ、地域の実情に応じた支援を展開されています。</p>		

II-4 地域との交流と連携

(2) 関係機関との連携が確保されている。		第三者 評価結果
①	必要な社会資源を明確にしている。	b
②	関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 学校、児童相談所との連携は基より、近隣の民生委員が運営する子育てサークルにも参加されています。必要な社会資源のリスト化や、地域でのネットワーク化に課題が残ります。</p>		

II-4 地域との交流と連携

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		第三者 評価結果
①	地域の福祉ニーズを把握している。	a
②	地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子ども食堂や宅食、学習塾の運営など地域のニーズに基づいた取組が行われています。 今後、連携機関との関わりにおいて、有事には有効に機能するネットワークの構築や、定期的な話し合いの機会の確保などの必要性について検討されては如何でしょうか。</p>		

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
②	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 職員会議を通して事例について検討する時間を設けており、事例を通してサービス提供に対する基本姿勢などに対する理解を促しておられます。課題としては、基本的人権や虐待防止などについても啓発されているとのことですが、周知には至っていない点が挙げられます。また、個人情報の管理については高い意識を持たれていますが、今後規程・マニュアルに基づいた内容となることを期待いたします。</p>		

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

(2) 利用者満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	利用者満足の向上を意図した仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 月に2回の頻度で理事長が当直に入り、子供たちとのコミュニケーションを通して気持ちを汲み取ることができるよう配慮されています。また、常日頃から関わりのなかで満足度を把握するよう努めており、職員会等で改善点についても話し合うようにしておられます。</p>		

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a
②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a
③	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子ども達が複数の相談方法や相手を選べることがわかる掲示が、わかり易い場所になされていることが確認できました。苦情解決や子どもたちの意見は迅速に対応するように心がけておられるとのことでしたが、迅速に対応したことが認識できるよう、継続的な記載となるよう取り組みの更なる進歩を期待いたします。</p>		

Ⅲ-2 サービスの質の確保

(1) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		第三者 評価結果
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	c
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 第三者評価は、今回が初回となります。また、自己評価に関する取り組みもこれまでなかったとのこと、今後年に1回以上の頻度で定期的な取組がなされることを期待いたします。</p>		

Ⅲ-2 サービスの質の確保

(2) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	c
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 標準的な実施方法については、文書化されていません。質の高い養育が展開されている点を鑑みると、実践されている内容を文書化されることで、充実した内容の文書化がなされるものと思われます。</p>		

Ⅲ-2 サービスの質の確保

(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a
②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b
③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 実施計画に基づくサービスの提供や、日々の支援に関する記録が詳細に残されていることが確認できました。職員間の情報共有が十分になされていることも理解できます。 一方で課題としては、記録の管理責任者の設置や取り扱い方法についての認識がなされていますが、今後は規程に基づいた取り組みとなることを期待いた</p>		

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

(1) サービス提供の開始が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	b
②	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 入居時にホームでの約束事を文書で明示し、丁寧に説明をされています。また、子どもによっては、必要に応じて個別にルールを設け生活してもらうこともあります。</p>		

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		第三者 評価結果
①	事業者の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) アフターケア担当者が中心となって取り組まれています。開設後、間もないため事例が少ない実情もありますが、今後、規程・マニュアルに基づいた取り組みとなることを期待いたします。</p>		

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

(1) 利用者のアセスメントが行われている。		第三者 評価結果
①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 入居1ヶ月以内に自立支援計画を策定されています。また、半年に1回モニタリングされ定められた手順に従ってアセスメントや自立支援計画の策定がなされています。必要に応じて児童相談所の児童福祉司や担当心理士との協議の中で進められています。</p>		

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。		第三者 評価結果
①	サービス実施計画を適切に策定している。	a
②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 自立支援計画は定められた手順に従って評価・見直しが行われていますが、職員会議などを通して日頃から検討する機会を多く持たれています。</p>		

第三者評価結果（小規模住居型児童養育事業）

A-1 利用者の尊重

(1) 利用者の尊重		第三者 評価結果
①	子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考え、ホームにおける生活改善ができるよう取り組んでいる。	a
②	ホームでの生活及び援助について事前に説明し、子どもが主体的に決定できるよう支援している。	a
③	多くの生活体験を積ませる中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通して、健全な自己の成長や問題解決力を形成できるよう支援している。	b
④	多くの人たちとのふれあいを通し、子どもが人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し共生できるよう支援している。	a
⑤	子どもの発達に応じて、本人に出生や生い立ち、家族の状況等を適切に知らせている。	a
⑥	被措置児童等虐待防止と早期発見に取り組んでいる。	b
⑦	子どもや保護者の思想や信教の自由は、他の子どもや保護者の権利を妨げない範囲で保障している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) ファミリーホームの根幹である、家庭的養育という環境の中で、主体的な自己決定が行われるよう支援に取り組まれています。乳児院から移行となり入所に至った兄妹に、年齢的に兄弟という認識がなかったケースに対して、兄妹という認識や繋がりを育むような取り組みを実践されています。</p>		

A-2 日常生活支援サービス

2-(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	子どもと養育者らの信頼関係を構築し、個々の子どもの発達段階や課題に考慮し援助している。	a
②	子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) まず、子どもから信頼される関係づくりを行い、子ども達に相談ごとがあった時に相談してもらえる関係性を目指しておられます。生活における約束ごとを紙面で説明され、子どもの実情に応じてルールを個別設定するなど配慮されています。</p>		

2-(2) 食生活		第三者 評価結果
①	食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも配慮している。	a
②	発達段階に応じて食習慣を習得するための支援を行っている。	a
③	子どもの生活時間にあわせて食事の時間を設定している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 家庭的な雰囲気の中で、季節の食材の使用、誕生日会でのごちそうの提供、月見だんごを外で食べるなどの配慮がなされています。食育において、一番の特徴としては、メニューを献立化することなく、子ども達の要望に合わせたメニューの提供が実践されている点です。引継ぎの職員が、献立が重複せず、かつ栄養バランスを考えて偏らないように配慮されています。また、ホーム長が栄養士資格を保有されている点も特筆すべき点として挙げられます。</p>		

2-(3) 衣生活		第三者 評価結果
①	衣服は清潔で、体に合い、季節にあったものを提供している。	a
②	子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点) 季節やTPOに応じた衣類の選択や、自己表現ができるよう配慮されています。また、幼児さんには一緒に衣類を畳んだりする機会を設け、整理整頓が行えるよう支援されています。</p>		

2 - (4) 住生活		第三者 評価結果
①	住居全体が生活の場としての安全性や快適さを配慮したものになっている。	a
②	発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>見学が可能な範囲で、子ども達の居室を確認させていただいたが、整理整頓され清潔感のある生活空間が提供されているという印象を持ちました。一方で、施設の入り口部分である庭や玄関など、清掃が行き届いていない部分があり、今後の検討課題として取り組んでいただきたいと思います。</p>		

2 - (5) 衛生管理、健康管理、安全管理		第三者 評価結果
①	医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、適切に対応している。	a
②	発達段階に応じ、身体の健康を自己管理できるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>近隣の医療機関をかかりつけ医としており、医療機関との連携は図れている。基本的な生活習慣が獲得できるよう支援するとともに、入浴後に洗髪が行えているか？頭皮は清潔に保たれているか？などのチェックは重要視されています。また、カットボランティアなども利用されています。</p>		

2 - (6) 問題行動に対する対応		第三者 評価結果
①	ホーム内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないようホーム全体に徹底している。	a
②	子どもの問題行動に適切に対応している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>会議や日頃の話し合いなどの機会に、子ども達の様子や対応について検討を重ね、役割分担しながら複数で支援を展開することで、大きな問題行動を未然に防止できている側面もあります。問題行動が発生した際にも、同様の対応を行うことで、実行力のある支援が行われるものと思われます。</p>		

2 - (7) 自主性、自律性を尊重した日常生活		第三者 評価結果
①	子どもが余暇を有効に活用できるよう配慮している。	a
②	買い物や外出、旅行などは、子どもとともに計画し、実施している。	a
③	子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助している。	a
④	ホームが地域に開かれ子どもが友人や地域との関係を深められるよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>共用部のテレビは、学齢の高い子どもが見たい番組を見るため、小さい子どもの居室にも別途設置されています。門限について基本的な時間設定はありますが、習い事やアルバイトなど実情に応じて、個々に設定されることとなっています。</p>		

2 - (8) 学習支援、進路指導等		第三者 評価結果
①	学習環境を整備し、学力に応じた学習支援を行っている。	a
②	学校との連携により子どもの状況に応じた支援を行っている。	a
③	学校を卒業する子どもの進路について、幅広い選択肢のもと、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>進路決定に当たっての支援は過去に1例しかないが、子どもと十分に話し合い自己決定を導に導かれたとのことです。現在、小学校中学年以下の学齢の子ども達が対象で、一緒に宿題をするなどして学習支援されています。今後、進路決定のうえで奨学金を受ける必要があれば、取得する際のノウハウは持つておられます。</p>		

2 - (9) メンタルヘルス		第三者 評価結果
①	虐待を受けた子どもなど心理的なケアを必要とする場合は、心理的な支援ができるよう関係機関と連携している。	a
②	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性について正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>児童相談所において心理士のカウンセリングを月に1回の頻度で受けている子どもの送迎を行う体制を確保されています。 また、心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する研修に関しては、優先順位が高いと考えられていますが、コロナ禍において受講できていない状況だ そうです。 性に関する支援については、入居されている子ども達の年齢層を考えると、そろそろ準備に取り掛かっても良い時期かと思われ ます。</p>		

2 - (10) 家族とのつながり		第三者 評価結果
①	児童相談所等と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり家族からの相談に応じる体制づくりができてい る。	a
②	関係機関と連携し、子どもと家族の関係づくりのために面会、外出、一時帰省などの機会を保障している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>児童相談所との連携により関わりをもつ内容であるが、現在関わりを持つことのできる家族・保護者が居ないのが実情である。過去には、児童相談を通し て保護者に入学式に出席してもらった経緯もある。</p>		